

## 第2回 地域医療支援病院運営委員会および地域協議会 議事録

開催日時;2023年7月27日(木)14時30分

場所 ;JCHO大阪病院 6階会議室5

出席者 ;【委員】

委員	JCHO 大阪病院	院長	西田 俊朗
委員長	JCHO 大阪病院	院長補佐	市川 肇
副委員長	JCHO 大阪病院	副院長	島田 幸造
委員	JCHO 大阪病院	副院長	金子 晃
委員	JCHO 大阪病院	事務部長	北 能演
委員	JCHO 大阪病院	看護部長	谷岡 美佐枝
委員	福島区医師会	会長	中島 滋郎
委員	福島区医師会	副会長	塚本 尚哉
委員	福島区医師会	理事	塚本 雅子
委員	福島区薬剤師会	会長	伊東 敏行
委員	大阪市保健所	西部保健医療監	半羽 宏之
委員	福島消防署	署長	松田 幸久
委員	(病院利用者)		雑賀 孝
委員	(病院利用者)		西川 まさ子

【関係者】

大阪病院	救急部診療部長	小笠原 延行
大阪病院	医療福祉相談室・地域連携室室長	三村 麻紀子
大阪病院	救急外来看護師長	松山 佳子
大阪病院	総務企画課長	小西 英康
大阪病院	医事課長	橘 弘城
大阪病院	地域連携室係長	小谷 直子

【議題】

1. 地域医療支援病院 指定要件に関する定期報告
  - 1) 救急医療の提供に関すること
  - 2) 紹介患者に対する医療提供に関すること
  - 3) 医療機器の共同利用
2. 入退院支援
3. 当院に対するご質問、ご要望等

## 新任委員の挨拶

塚本福島区医師会副会長

### 1. 1) 救急医療の提供に関すること

最近コロナの発熱が少々あるなか、ベッド数に限りがあり、新患を一部お断りするケースがあるが、近隣のクリニックに関してはお受けするようにしている。

塚本理事: 昨日熱発の救急搬送の件で、担当の先生から、コロナの疑いがあるが、今は満床で受けられないが、コロナでなければ診てもらえるということであった。検査で陰性と分かりお伝えすることで無事搬送することができた。コロナかどうか前もって検査しておくといわれる。

島田副院長: そうしてもらえれば確実であるが、緊急に処置が必要な時、コロナだから断るとするのはできるだけしないように考えている。

### 1. 2) 紹介患者に対する医療提供に関すること

#### ① 紹介・逆紹介

紹介患者数は増加しており、紹介率については、昨年度平均 75.1%、今年度も現在のところ 70.4%で安定して基準の 65%を上回っている。逆紹介率も同じく条件を満たしている。

半羽西部保健医療監: 逆紹介のことに関連して、JCHO 大阪病院は紹介受診重点医療機関の指定を受ける予定であると聞いている。それは外来患者について、地域のクリニックへ患者を率先してかえず病院の一つであるとの理解でよいか。

西田院長: たとえば当院で 2~3 ヶ月に 1 回薬のみで受けている場合、徐々に地域の希望する医療機関へ行ってもらおうようにする。これには患者が納得していただく必要があり、きちんと説明できるような院内のシステムをつくりたいと考えている。

### 1. 2) ② 診療予約・緊急受診等相談に関すること

少しずつ相談件数は緊急受診、転院相談を含めて増加している。

少し離れた病院からの転院や、手術枠が確保できないが今入院している場合の転院などお断りするケースもあるが、かかりつけのクリニックからの相談は断らず受けるという対応をしている。

1. 3) 医療機器の共同利用

特に CT 単純、MRI のオーダーの数を増やしている。

また 7 月から、かかりつけではなかなかできない特殊検査ということで、マンモグラフィを院外検査でオーダーできるようにした。

2. 入退院支援

退院調整の転帰については、若干転院の調整の割合が増えている。

行き先については、回復期リハビリテーション病棟、次いで地域包括ケア病棟に移る方がほとんどである。

また、コロナ禍でなかなか連携がうまく図れなかった時期からは改善していて、退院時共同指導実施件数や介護支援等連携指導料算定件数も回復してきている。

3. 当院に対するご質問、ご要望等

塚本副会長: 眼科の中にも緊急の疾患があり、先日眼科につないでもらったときに受診が明日以降になると言われたが、緊急の受け入れで疾患によって分けられているということがあるか。

三村室長: たとえば医師や看護師が電話に出られなかったとき、もしかしたら緊急性の判断が難しい場合もあるかもしれない。

中島会長: この季節救急車がよく出ているが、熱中症に関してはどうか。

松田署長: 5 月にコロナ禍が明けて急性アルコール中毒が増え、この梅雨が明けから熱中症とみられる搬送が増えた。どちらかという高齢者が多い。また、救急搬送全体として特に月曜日の朝が多い。

半羽西部保健医療監: コロナに関連して保健所でも情報収集に努めていて、面会時間については 9 月末まではきびしめのスタンスをとっている医療機関が多いが、貴院はどうか。

谷岡部長: 面会は 2 月中旬ぐらいから他の施設よりも早く解除した。

そのときと今も同じ状況で、家族中心の 1 人か 2 人の方で 30 分程度お願いしている。

コロナについての職員の復帰に関してはきびしめの対応をとっている。

西田院長：医局会でも話をする予定であるが、救急の受け入れについて、救急隊への返答はできるだけ即答するようにと考えている。

また、地域のクリニックへの返答についてもできる限り10分以内に行うよう意識づけるようにする。

もう一点、老人がちょっとした転倒でも骨折することがあり、高齢者の骨密度が下がっている現状がある。

そこで骨粗鬆症外来を開設しているが、これについては地域のクリニックのみなさまにもご協力をお願いしたい。

以上